

総合警備保障が5年ぶり2度目の優勝
女子は三井住友海上が2年連続4度目のV

厚生労働大臣杯争奪第56回全日本実業柔道団体対抗大会は、快晴の6月3日(土)、4日(日)の両日、ライラックほのかに香る候、札幌市南郊「豊平公園」内にその偉容を見せる「北海道立総合体育センター」において開催された。



開会式

初日は、男子第三部で開催地特別参加の北海道警察がアルゼを3-1で退けて優勝した。

女子第一部は3チームでリーグ戦を戦い、三者三すくみの混戦となったが、負け数で下回る三井住友海上が2年連続4度目の優勝旗を手にした。

最終日、男子第一部は総合警備保障が、1年半ぶりに復帰した井上康生選手らの活

躍で、2年連続決勝戦進出した新日本製鐵を4-1で降し、5年ぶり2度目の優勝を果たした。

男子第二部は鈴木桂治選手を擁する平成管財がネクスコ(旧日本道路公団)を1-1の内容差で制し、4度目の優勝を飾る。来年は2チームが第一部出場権を獲得。女子第二部は了徳寺学園が日水製菓を3-0の全勝で初優勝を果たした。

来年度の大会は6月2日(土)、3日(日)、広島市立東区スポーツセンターに於いて挙行される。1986年(昭和61年)に広島県立体育館で挙行された第36回大会から21年ぶり、3度目の広島市での開催となる。



選手宣誓をする高橋宏明選手(旭化成)



平成17年度年間最優秀選手

〔永野重雄杯〕 鈴木桂治(平成管財)

〔宮崎輝杯〕 薪谷 翠(ミキハウス)

特別功労賞(20回出場)

徳武宗昭(JFEスチール)

功労賞(15回出場)

上原貴志(トヨタ自動車)

行徳祐二(東日本旅客鉄道)

男子 第一部

総合警備保障2度目のV、 井上、優勝に花添えるオール一本勝

総合警備保障対新日本製鐵の決勝戦。総合警備保障は5年連続制覇を狙う旭化成Aを3-1、新日本製鐵は了徳寺学園Aを同じく3-1で降しての決勝戦進出。共に接戦が予想された強豪との準決勝戦を大差で制し、意気あがる両雄の対戦。試合時間は、男女とも第一部は5分で行われる。その他の部は4分間。

先鋒戦は、早々に井上の登場。対するは短躯巨体(126kg)の永井。井上は1分を過



井上の切れ味鋭い内股復活

ぎる頃からエンジン全開。素早い動きから大内刈、内股を連発。クライマックスは1分50秒、組み際の永井の一瞬の虚を衝き、奥襟を掴むや否や十八番の内股が炸裂。永井の下半身が大きく跳ね上がるや次の瞬間、全身を裏向けに半回転。勢い余って井上の引き手は離れるも、永井の巨軀は天井を仰いで畳に沈む。目の覚めるような一本。井上は3戦全てを鮮やかな一本勝。全柔道人が待ち望んだ日本のエースの見事なカムバック。

次鋒、170cmの小野対191cm長身の佐藤戦。小野が背負投、双手刈、大内刈と攻め立てれば、佐藤は持て余すように受けに回る。中盤の3分53秒、小野は右組みから左一本背負と見せて左足を飛ばし、左大内刈で有効を奪う。続く4分3秒には技の止まった佐藤に指導1が与えられ、そのまま時間経過。総合警備保障2点リード。

中堅戦。大藤対森田、巨漢同士の戦い。開始早々8秒に大藤が有効、1分15秒に森田が効果とそれぞれポイントを奪った後、2分25秒に大藤の思い切った掛けた大内刈を、森田が大内返しで技ありを奪う。そのまま崩壊袈裟固に移行し、新日本製鐵1点挽回。

副将戦は、喧嘩組み手の両者、共に組み手争いで1分35秒、両者に指導2。しかし、2分39秒には落合が払腰気味に右足を踏み出した瞬間を、村上が左足で払って効果を奪う。落合は猛反撃に移るが、村上もよく受けてブザー。この瞬間、総合警備保障の5年ぶりのV達成成る。

大将戦。体格の勝る生田が、高橋を内股、大外刈で揺さぶり、52秒には大外刈から戻るや否や、右内股一閃。高橋は大きく宙を舞って落下。14時40分、本大会の全ての試合が終了。

総合警備保障は、井上、生田のベテラン勢と村上等若手選手がうまく噛み合って、旭化成Aの5連覇を阻み、新日本製鐵の悲願を打ち砕いた。試合終了後、総合警備保障チームは5年ぶりの優勝の喜びに沸き返った。



男子第一部優勝 総合警備保障



胴上げされる小橋監督

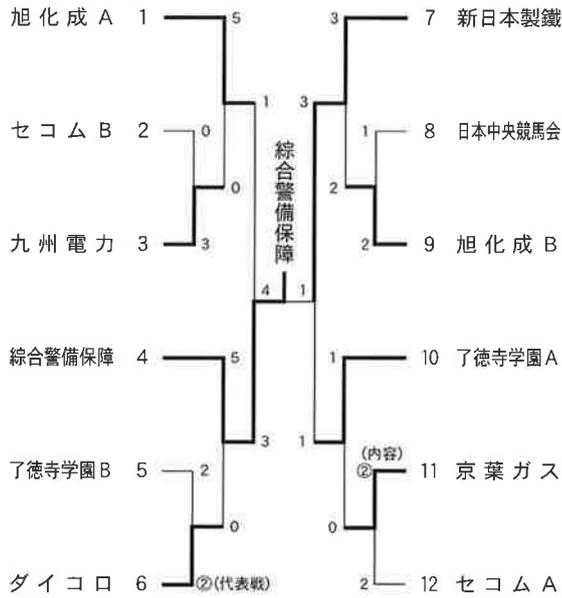
優勝監督コメント

総合警備保障 小橋秀規

どのチームをみても強い。とにかくベストの形で勝負する事だけを考えていた。特に準決勝の四連覇中旭化成戦は胸を借りるつもりでオーダーを組んだ。井上が世界チャンピオンの泉に一本取ってからチームのムードはあがり、生田もきっちりポイントを取ってくれた事で更に団結力が強まったと感じた。選手達に有り難うと言いたい。来年は連覇に向けて更に努力します。

男子第一部成績表

優勝 総合警備保障
 準優勝 新日本製鐵
 第3位 旭化成 A
 第3位 了徳寺学園 A



日本中央競馬会、了徳寺学園B、セコムA、セコムBの4チームは次年度第二部に降格する

【準決勝】

第1試合

旭化成 A 1-3 総合警備保障
 泉 浩 3段 送襟絞 井上康生 5段○
 松山 毅 4段 —×— 大藤尚哉 3段
 大鋸 新 5段 横四方固 生田秀和 5段○
 高橋宏明 4段 内股透 村上和幸 3段○
 ○高井洋平 3段 内股 小野俊教 3段

第2試合

新日本製鐵 3-1 了徳寺学園 A
 ○永井亮平 4段 袈裟固 竹澤稔裕 3段
 吉永慎也 4段 —×— 飛塚雅俊 4段
 ⊖森田祥一 3段 優勢勝ち 矢寄雄大 4段
 ⊖落合幸治 3段 優勢勝ち 中野 竜 3段
 高橋徳三 4段 優勢勝ち 小野卓志 3段⊖

【決勝】

総合警備保障 4-1 新日本製鐵
 ○井上康生 5段 内股 永井亮平 4段
 ⊖小野俊教 3段 優勢勝ち 佐藤勇作 3段
 大藤尚哉 3段 合技 森田祥一 3段○
 ⊖村上和幸 3段 優勢勝ち 落合幸治 3段
 ○生田秀和 5段 内股 高橋徳三 4段

優秀選手

〔男子〕

第一部

井上康生 (総合警備保障)
 生田秀和 (総合警備保障)

森田祥一 (新日本製鐵)

小野孝志 (了徳寺学園)

高井洋平 (旭化成)

第二部

鈴木桂治 (平成管財)

百瀬晃士 (平成管財)

田村和也 (NEXCO)

岡田建彦 (東レ・滋賀)

中根慶太 (東芝)

第三部

河合秀幸 (北海道警察)

遠藤 剛 (北海道警察)

新垣信成 (アルゼ)

大平紘嗣 (アドリアインターナショナル)

湊田昌樹 (九州電力)

〔女子〕

第一部

横澤由貴 (三井住友海上火災保険)
 渡邊美奈 (コマツ)

鳥谷部真弓 (セコム)

第二部

宮本樹里 (了徳寺学園)
 長瀬めぐみ (了徳寺学園)

東野妙利 (日本製薬)

男子第二部

平成管財、鈴木が獅子奮迅の活躍で4度目の優勝 新生ネクスコ、決勝戦で涙を飲むも来年は第一部に昇格

参加チーム数24チームによる戦いを制して決勝戦に進出したチームは、準決勝戦では東芝を5-0ストレートで降すも、準々決勝戦では総合警備保障に辛勝した平成管財と、対するは緒戦から危なげなく勝ち進んだネクスコの両雄。

平成管財は、昨年第一部棄権欠場により第二部に降格。一方のネクスコは、昨年に普及された日本道路公園を母体として新たに結成されたチーム（「ネクスコ」は3高速度道路会社の各社共通の愛称）。共に第一級の強力メンバーでのチーム編成。

先鋒、市ノ渡対竹下戦。左右の喧嘩組み手で両者組み合わず、30秒、1分9秒、1分54秒と両者指導3まで受けるも、猶も攻撃がなく2分53秒には共に反則負け。

次鋒戦。近藤は鈴木を相手に、序盤場外際の攻撃に終始する。しかし、徐々に組み手を制するようになった鈴木は、小外掛内股、足車と攻勢に転じる。近藤に防御の姿勢が目立ち始めた中盤過ぎ、鈴木は右に横移動し、近藤を十分に前に引き出し、右足を素早く後ろに回して体落に入ると、近藤はもんどりうって前方に回転。2分48秒、鈴木豪快な体落で先取点獲得。

中堅戦、145kg巨漢里山山に対するは一回り小柄な小齋。両者組み合わず、2分24秒両者指導2まで受ける。その後小齋が里山の組み手を殺して動きを封じ続け、そのままブザーで引分。

副将戦は、百瀬左組み、深川右組みの両者は殆ど組み合わず、両者に31秒指導1、58秒指導2、1分41秒指導3。両者、試合半ばに至らぬ間に指導3まで追い込まれるが、それでも互いに技が出ず、結局2分9秒には両者反則負けとなる。

大将戦は、体格に勝る田村が筒井の奥襟を掴んでやや攻勢に試合を進めるが、互いに見るべき技は出ず、1分52秒両者に指導1。その後、奥襟を嫌う筒井に2分10秒指導2が与えられる。中盤以降、筒井は反撃

に転じるが功なく、逆に試合終了直前、田村が前に出るところを片襟で防いで、更に指導3を受ける。しかし、結果指導3に止まり1-1ながら内容差で平成管財の優勝となる。

平成管財は、エース鈴木が4戦すべて一本勝。エンジンの始動は遅れ気味であったが、3回戦を除く3試合を、得意技で対戦相手を豪快に投げ捨てた。

平成管財は4度目の第二部優勝。両チームが来年の第一部出場権を勝ち取る。

優勝監督コメント

平成管財 井上晃一

準々決勝の総合警備保障戦が一番のヤマだった。手強い相手だけに気を引き締めて戦った。

鈴木がポイントゲッターの仕事を果たし、百瀬も組み手に妥協せず積極的に攻め続け、1ポイントを守りきれた。これでチーム一丸となり決勝戦でも選手それぞれが力を存分に発揮してくれた。来年は第一部で総合警備保障、旭化成に挑戦する。



第二部優勝の平成管財チーム

【決勝】

- 平成管財 ① - 1 N E X C O
 市ノ渡秀一 4段 両者反則負 竹下忠良 3段
 ○鈴木桂治 4段 体落 近藤秀作 5段
 里山裕晃 4段 —×— 小齋武志 4段
 百瀬晃士 3段 両者反則負 深川幸太郎 3段
 筒井宏樹 4段 優勢勝ち 田村和也 5段○

男子第二部成績表

優勝 平成管財 第3位 東 芝
 準優勝 N E X C O 第3位 東レ・滋賀

以上の4チームは次年度第一部に昇格する



鈴木、豪快な体落して先制



男子 第三部

地元特別参加の北海道警察、貫禄の優勝 アルゼ、奮闘空しく決勝戦で力尽きる

51チームでの優勝争い。内、地元特別参加は7チーム。決勝戦はアルゼ対北海道警察の対戦。アルゼは20歳代前半中心の若いチーム。準々決勝の新しい日本製鐵戦以外は圧倒で決勝戦初出場。対する特別参加の北海道警察は云わずと知れた警察柔道界の雄。全日本選手権常連の強豪森大助選手を擁する。決勝戦まで全勝と破竹の勢いで進出。先鋒戦。両者指導2の後、菅に片襟の指導3が与えられ、浅野がリードするも束の間、菅の攻撃に浅野は受けに回り、同じく指導3を受ける。そのままブザー。次鋒、右組みの新垣は、47秒右内股から左一本背負の連絡技で効果を奪うと、続く1分28秒、左小腰、技ありからそのまま横四方に固め一本。アルゼに先取点。中堅戦。両者指導1で迎えた中盤、河合は大内刈、体落で攻勢。3分10秒守勢の市岡に指導2。続く3分35秒、河合は右にフインントを掛け、左小外掛から体を捨てる。市岡は場外に崩れ有効が宣せられる。副将の遠藤は、両者指導1の直後の1分32秒、組み際に山口の首を巻いて抱きつくような右大外刈。追い足鋭く刈り込み行けば、山口が左手で畳を突いてかばうも、委細構わず体を預けると、山口堪え切れず背中から畳に沈み、一本。北海道警察が逆転。170cm短躯の保立対187cm長身の森の大將戦。森は奥襟を取って保立を圧迫するが、保立は森の後ろ帯の上辺りを握って、返し技の構えを見せる。保立に指導1の後、森は返しを恐れてか、思い切った技が出ず、1分28秒両者に指導。その後、森が上から圧迫を続けると、保立はなすすべもなく2分53秒に指導3。そのまま試合終了。地元北海道警察の優勝成る。

優勝監督コメント

北海道警察 道場大貴

出るからには絶対優勝したかった。全員が機動隊の最強メンバー。決勝戦では序盤ヒヤツとする場面もあったが、最後は良い形で締めくくられた。王子製紙の選手が練習に参加してくれ、勤務がまちまちの中、非番の日でも練習を積んできた。去年の全国警察大会で第二部に降格したが、今回の優勝で勢いが付いた。9月の警察大会（日本武道館）は自信を持って臨める。



森、全試合快勝



第三部優勝の北海道警察チーム

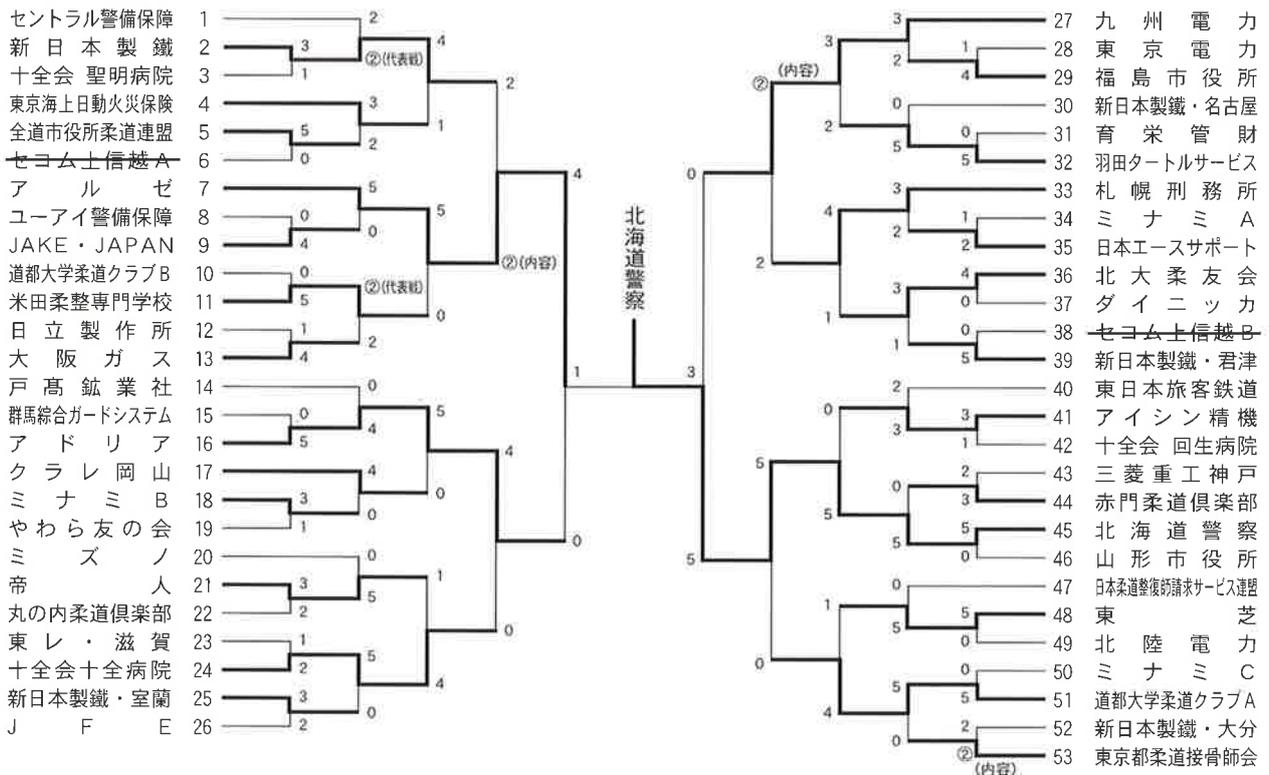
【決 勝】

アルゼ 1-3	北海道警察
浅野雄太 3段	菅 太誠 4段
○新垣信成 3段	横四方 長利功三 3段
市岡 剛 3段	優勢勝ち 河合秀幸 4段◎
山口 司 3段	大外刈 遠藤 剛 3段○
保立 勝 3段	優勢勝ち 森 大助 5段◎

男子第三部成績表

優勝 北海道警察 第3位 九州電力
準優勝 アルゼ 第3位 アドリアインターナショナル

以上の4チームは次年度第二部に昇格する



女子 第一部

三井住友海上、接戦を制し 2年連続4度目の優勝を飾る

3チームによるリーグ戦で行われた女子第一部は、3チームとも勝ち点、勝ち数とも同数ながら、負け数最小の三井住友海上が2年連続4度目の優勝。

三井住友海上 3-0 セコム

先鋒横澤対桂。横澤が積極的な柔道で、開始早々内股で技ありを奪い、その後も攻め続け、大内刈で技あり、合せ技一本勝。次鋒の岩藤も峯田を圧倒し、指導2と大内刈効果で三井住友海上が連取。中堅の上野順恵対植木戦は、上野が体落で積極的に攻撃。植木の動きの止まった2分31秒に指導1が与えられ、そのまま時間。三井住友海上先鋒から3連勝で勝ち点1を上げる。副将戦、地元のゴールドメダリスト上野雅恵は、緊張から動きにやや制裁を欠き、2分49秒両者に指導2が与えられ、そのまま引分ける。大将戦の岡田対中野は、岡田が指導1、中野が効果と相互にポイントを奪い合い引分ける。

コマツ 2-3 セコム

先鋒戦は、攻めない吉村に48秒指導1、その後岩田の攻撃に吉村が応戦する展開となるも互いに決め手を欠き時間。コマツ先取。次鋒戦、互いに技の応酬。3分27秒峯田が小外刈で効果を奪う。セコムがタイに持ち込む。中堅戦は、序盤は組み手争いに終始するも、3分45秒植木の左大外刈が見事に決まり一本。セコム逆転。副将戦は、逆に渡邊が袖釣込腰で一本。今度はコマツがタイに持ち込む。抜きつ抜かれつの白熱した試合の決着は、大将戦に持ち込まれる。

開始早々から鳥谷部が効果、背負投技あり、小内刈と続けざまにポイント連取。松崎の後半の反撃もよく防ぎ、セコムがコマツを降す。

三井住友海上 0-1 コマツ

先鋒の岩藤と宝は、激しい攻防となるも引分け。次鋒戦は、横澤対岩田。喧嘩組み手で引き手の奪い合いに終始。両者指導2まで受けて引分ける。中堅の上野順恵と渡邊は、上野が朽木倒し、双手刈等の足取りの技を連発し、渡邊が背負投で応戦するも見るべき技がなく3試合連続の引分けに。副将の上野は得意の大内刈、小外刈、大外刈を連発し、岡を攻めるも不発に終わり、猶も引分けが続く。勝ち点のないまま迎えた大将戦。谷本は低い一本背負の清水の技を封じ、3分40秒疲れの見た清水が頭を下げた所を、狙いすまして内股を放てば清水横転し効果。その後、清水は反撃に転じるがタイムアップ。コマツは宿敵三井住友海上を降すも、セコム戦の失点が響き6年ぶりの優勝を逃す。



女子第一部優勝の三井住友海上チーム

優勝監督コメント

三井住友海上 柳澤 久

■ 昨年4勝したもののセコムと①-①の内容勝ちで辛勝し、その前は(秋田大会)得失点差で3位だった。なので、失点だけは避けたかった。皆、優勝した気分浸か



上野(雅)対吉澤、引き分ける

【主な対戦結果】

三井住友海上 3-0 セコム
 ◎横澤由貴 2段 合わせ技 桂麻利亜 3段
 ◎岩藤理恵 2段 優勢勝ち 峯田智栄 2段
 ◎上野順恵 2段 優勢勝ち 植木順子 2段
 上野雅恵 4段 —×— 吉澤穂波 3段
 岡田紘味 2段 —×— 中野公洋子 3段

コマツ 2-3 セコム
 ◎岩田千絵 3段 優勢勝ち 吉村依子 3段
 宝寿栄 2段 優勢勝ち 峯田智栄 2段◎
 岡明日香 3段 大外刈 植木順子 2段○
 ○渡邊美奈 2段 袖釣込腰 吉澤穂波 3段
 松崎みずほ 2段 優勢勝ち 鳥谷部真弓 2段◎

三井住友海上 0-1 コマツ
 岩藤理恵 2段 —×— 宝寿栄 2段
 横澤由貴 2段 —×— 岩田千絵 3段
 上野順恵 2段 —×— 渡邊美奈 2段
 上野雅恵 4段 —×— 岡明日香 3段
 清水千晶 初段 優勢勝ち 谷本歩実 3段◎

女子第一部成績表

(リーグ戦)

	三井住友海上	コマツ	セコム	勝 負 0勝0負0分	順 位
三井住友海上		△ 0-1	○ 3-0	1勝1敗 (3-1-6)	1
コマツ	○ 1-0		△ 2-3	1勝1敗 (3-3-4)	2
セコム	△ 0-3	○ 3-2		1勝1敗 (3-5-2)	3

れない。上野姉妹は地元なので200名以上の応援団が来てくれていて、すごいプレッシャーを感じていたようだ。それにしても第一部が三社のリーグ戦では寂しい。女子の底辺を増やし、各企業が社会に出てきちゃんと仕事できる人間のアピールをする事が肝要。

第56回全日本実業柔道団体対抗大会歓迎レセプション開催

6月3日(土)18時30分より札幌グランドホテル本館金枝の間において、第56回全日本実業柔道団体対抗大会歓迎レセプションが盛大に行われた。

当日は、(財)全日本柔道連盟の嘉納会長や北海道の嵐田副知事はじめ、多数のご来賓の方々や、大会役員、競技役員、並びに地元関係者など総勢180余名の参加があり、歓迎ムード漂う中、和やかな雰囲気でのレセプションが挙行された。

阿南惟正副会長の挨拶に始まり、嵐田昇北海道副知事、川井洋一札幌市観光文化局理事の歓迎のことば、ご来賓の紹介と続き、昨年の開催地兵庫県代表、藤田家将兵庫県柔道連盟会長に感謝状の贈呈の後、須貝忠吉北海道柔道連盟会長の音頭による鏡開き、堀達也北海道体育協会会長のご発声による乾杯で祝宴に入った。

宴では、参会者一同、北海道の山海の珍味と地元の美酒に舌鼓を打ち、会場内は親睦ムード一色に染まる。そして宴たけなわの頃、来年の開催地を代表して西畑耕治広島県柔道連盟副会長による広島弁での挨拶があり、会場は一段と盛り上がりを見せた。

会場の至る所で全国各地のお国言葉が飛び交う中、高梨幸輔大会実行委員長のご発声による閉会の辞。尽きせぬ名残を留めつつ歓迎レセプションはお開きとなった。



嵐田 北海道副知事のあいさつ

「定時総会」開催される

第45回定時総会及び平成18年度理事会は、平成18年6月2日(金)午後4時30分から北海道立総合体育センター内大研修室にて開催された。総会は207社の加盟企業中、142社の出席(委任状提出分含む)、理事会は61名の定足数中、57名(委任状提出分含む)の出席により成立。議長には阿南副会長が選出され、第1号議案から第5号議案について満場一致で承認された。

- 第1号議案 平成17年度事業報告承認の件
- 第2号議案 平成17年度収入支出決算承認の件
- 第3号議案 平成18年度事業計画案承認の件
- 第4号議案 平成18年度収入支出予算案承認の件
- 第5号議案 平成18年度役員改選の件

オリンピック・世界選手権大会メダリストによる柔道教室開催される

大会終了後、同会場において柔道教室が行われた。講師は井上康生(総合警備保障)、鈴木桂治(平成管財)、高井洋平(旭化成)、塚田真希(総合警備保障)、上野雅恵(三井住友海上)、谷本歩実(コマツ)、横澤由貴(三井住友海上)、三井住友海上柔道部員。中村兼三・旭化成コーチの進行により技の指導、乱取り、質疑応答等。参加した300名を超える子供達は憧れのメダリスト達と間で触れ合えたことに目を輝かせていた。



豪華指導陣に子供達の熱い眼差し



井上選手の内股

発行日 2006年7月20日
 発行人 全日本実業柔道連盟
 取材協力 事務局長 郷田博史
 ジャーナリスト 宮澤正幸
 印刷 ダイコ口株式会社